

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要(全体)

岡崎市地域公共交通会議 (岡崎市)

案

令和6年4月1日設置

令和4年3月14日 岡崎市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和4年4月～令和9年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

【地域公共交通計画について】

【岡崎市の概要】（令和6年4月現在）

人口：383,141人
鉄道：3路線17駅が所在
バス：バス基幹軸を中心に49路線が所在
タクシー：市内に本社を有する事業者6社

【計画策定の背景】

本市では、他の分野政策・計画との連携・連動を図りながら、地域公共交通網の形成及び確保に資するマスタープランとするため、令和4年3月に岡崎市地域公共交通計画を策定した。

計画の基本理念

「新たなくらしと活力の創造を支える交通体系」

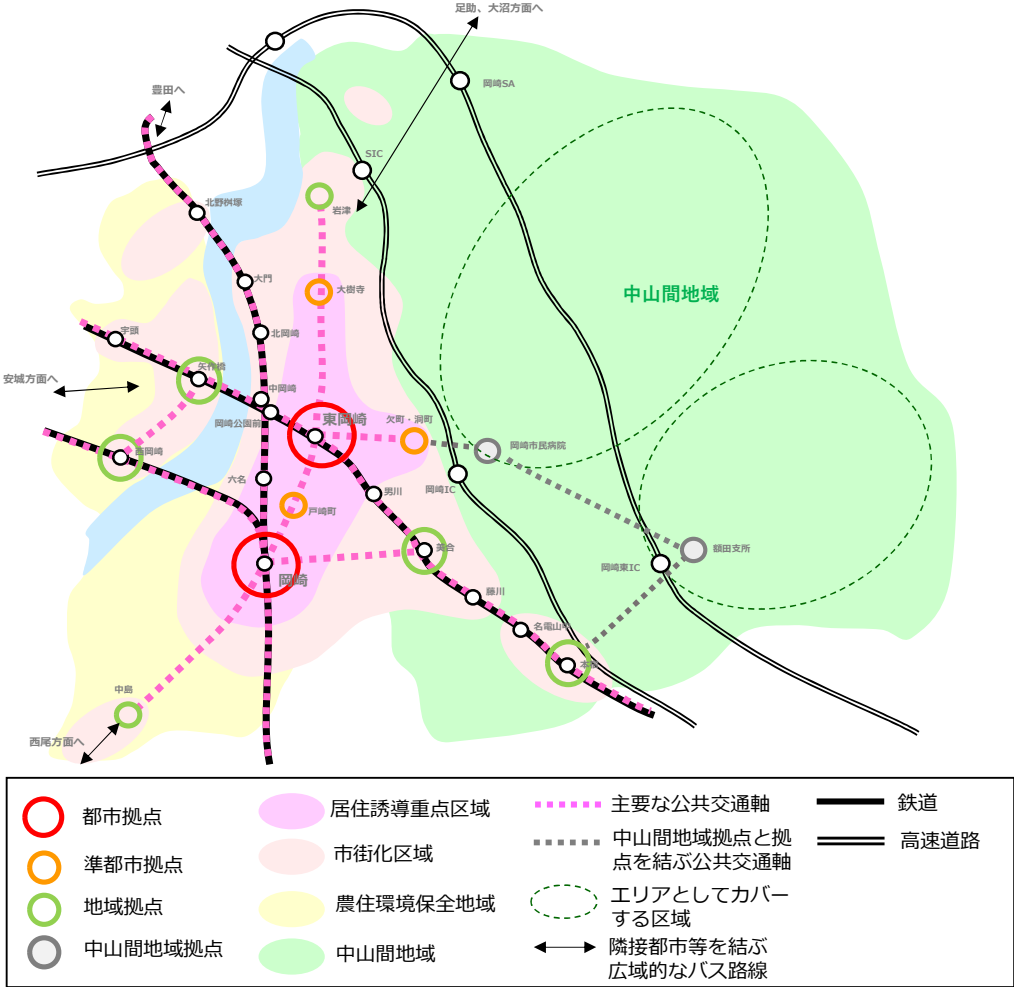
基本目標

- 1 交流を支え都市の魅力を高める
- 2 地域のニーズにあった地域主体の交通
- 3 人と環境にやさしい交通
- 4 新たな社会に対応したスマートな交通

成果目標

「公共交通利用者数の回復」
鉄道:2,678万人、バス:668万人、タクシー:137万人

○岡崎市が目指す交通の将来像



この計画は、生活交通の存続が危機に瀕している地域等において、地域の特性・実情に最適な移動手段として、地域公共交通の確保・維持・改善に関する事業について定める。

[illegible]

1 交流を支え都市の魅力を高める

おかしきスマートムーバクション2024

公共交通の利用促進や駅近商業の発達を図るために以下の取り組みを実施します。
この機会にご参加いただくことで公共交通をご利用ください。



①おかしき交通 フォトコンテスト

●開催日 11/17(日)～12/27(日)

●開催場所
市内の主要交通機関(電車、バス、タクシー)に乗って写真を撮るとご参加
●参加方法
Instagram、X、メールなどでお知らせと必要情報を記入しての応募

※応募者全員に賞品、1名500円分を贈ります。



おかしきにはマナーカードや
オリジナルグッズをプレゼント!

②小学生のバス無料乗車サービス ●開催 11/22(土)～12/11(日)

●開催場所 市内の小学生のバス乗車を無料にします
●実施日 市内の小・中学校の児童・生徒がバス乗車料が無料です
●実施期間 11/22(土)～12/11(日)

③自転車乗車の試乗 ●開催 11/24(日)～29(日)

●開催場所 国府川駅、市川駅、阿部川一丁目駅
●定員 各駅限 (各1人乗車)
●申込 11/24(日)～29(日) 自転車乗車の予約を行うこと
●申し込みと乗車 申し込み後、バスセンターへ乗車して試乗可
●申し込み受付 12/4(日)～29(日)

④eコマ運動強化月間 ●開催 12/2(月)～27(金)

●実施期間 12/2(月)～27(金) 市内、市外からの各店・企業・個人様、より多く
●実施内容 12/4(日)～29(日)



おかしきにはマナーカードや
オリジナルグッズをプレゼント!



詳しくは下記ホームページにてご確認ください

国府川市 デジタル推進課 総務係

TEL:0564-23-6761

詳しくは下記ホームページにてご確認ください

市川市 地域生活課 公共係

TEL:0564-23-6486



基本目標	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
2 地域のニーズにあった 地域主体の交通	③【矢作デマンド】 ・「矢作デマンド」実証実験の継続（2年目） ・地域協議会を12回/年開催 ・バス乗継割引や交通系ICカード導入の影響検証 ・運行台数変更（午後を2便→1便）の影響検証	・月平均利用者数は増加傾向。 240人/月(R5.4～R6.3) →301人/月(R6.4～R6.10) ・バス乗継割引 3件(R6.10時点) ・ICカード利用 3件(R6.10時点) ・利用が少ない時間帯の減便のため、 運行台数変更による影響がない ことを確認した。	・地域住民による周知 活動の影響もあり、 利用者数が増加した。 ・より最適な運行計画 とするために、引き 続き地域協議会と 検証を継続していく。
	④【チョイソコおかざき】 ・「チョイソコおかざき」の本格運行の開始 ・地域協議会を5回/年開催 ・運行日時の変更（平日3日9時～17時 →平日5日9時～14時）及び 運行車両の変更(特定大型車両→セダン型車両 による影響検証	・月平均利用者数はほぼ増減なし。 201人/月(R5.4～R6.3) →186人/月(R6.4～R6.10) ・予約過多による予約不正立件数も ほぼ増減なし。 1.5件/月（R5.4～R6.3） →0.9件/月（R6.4～R6.10）	・運行計画変更後も 利用者数に影響は なく、利用者から 運行計画変更による 不満の声もないため、 最適な運行計画に 近づいていると考え られる。
	⑤【額田地域コミュニティ交通】★ ・額田地域コミュニティ交通の運行を継続 ・地域の移動ニーズを確認し、地域に必要な公共 交通を検討するために、地域が主体となって、 額田地域全世帯に対してアンケートを実施	・R6.12月に額田地域の2,374世帯に アンケートを実施した。 (アンケート回収率〇%)	・今年度中に完了する アンケートの分析結 果をもとに、今後の 必要な公共交通を 地域と検討していく。

★は補助対象の取組について記載

※その他（基本目標2）
公共ライドシェア導入に関する調査検討として「山吉田ふれあい交通」（新城市）を視察した。

基本目標	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
3 人と環境にやさしい交通	⑥【高齢者パス】 ・名鉄バス（株）が65歳以上を対象に発売する高齢者パスの購入費用の一部を補助 ・より多くの方に制度を利用してもらうため、以下のとおり補助内容を変更 ▶令和6年度は前年より補助期間を延長（7月～9月末 → 7月～3月末） ▶補助額を増額、 ▶補助回数を一人一回までに変更。（市への事前の申込みが必要）	・補助内容の変更により、令和5年度を超える新規購入者を確保することができている。 令和5年度：63人 令和6年度：64人	・補助内容を変更したことにより、新規購入者が増加傾向にあり、公共交通機関を利用するきっかけ作りに寄与した。

⑥

「シルバーパス65」・「ゴールドパス70」

岡崎市が購入費用の一部を補助します！



対象者

次の（１）及び（２）の条件をいずれも満たすかた

（１） 補助券申込時に満65歳以上の岡崎市内在住のかた

（２） 購入時に岡崎市内在住のかた

価 格

	シルバーパス65 (満65歳～69歳)	ゴールドパス70 (満70歳以上)
	通常価格→購入価格	通常価格→購入価格
1ヶ月券 (2,000円補助)	7,000円 → 5,000円	5,500円 → 3,500円
3ヶ月券 (5,000円補助)	20,000円 → 15,000円	16,000円 → 11,000円

基本目標	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
4 新たな社会に対応したスマートな交通	⑦【電動キックボード】 ・市中心部の回遊性を向上させ、にぎわいづくりを促進するとともに、本市における電動キックボード導入の可能性を検証するため実証実験を実施（R6.8～R7.3）	・利用件数 1,259件 （R6.8.29～R6.11.30） ・最多利用日 10月14日（祝）50件	・他市の都市部と比較し、利用時間が長いこと、エリア内の回遊性向上に貢献していると推察される。 ・利用者アンケートや走行データ分析を実施し、事業の採算性や継続性について検証する。
	⑧【自動運転バス】 ・自動運転バスの実証実験を実施（R6.11.24～R6.11.29） ・既存バス路線をベースに東岡崎駅～中央総合公園をレベル2で走行 ・中央総合公園の駐車場内にて運転席無人で走行	・乗車人数 175人 （予約制）	・アンケート結果を記入
	⑨【グリーンスローモビリティ】 ・北斗台地区における「グリーンスローモビリティ」の実証運行を実施（R6.5.7～R6.6.2） ・実証運行では、定時定路線2ルートとデマンド運行を実施	・乗車人数 843人 （定時定路線565人、デマンド278人）	・公民館や商業施設の利用が多く、生活の足となつたと推察される。 ・効果検証を行い、持続可能な移動手段の確保を検討する。

⑦



⑧



⑨



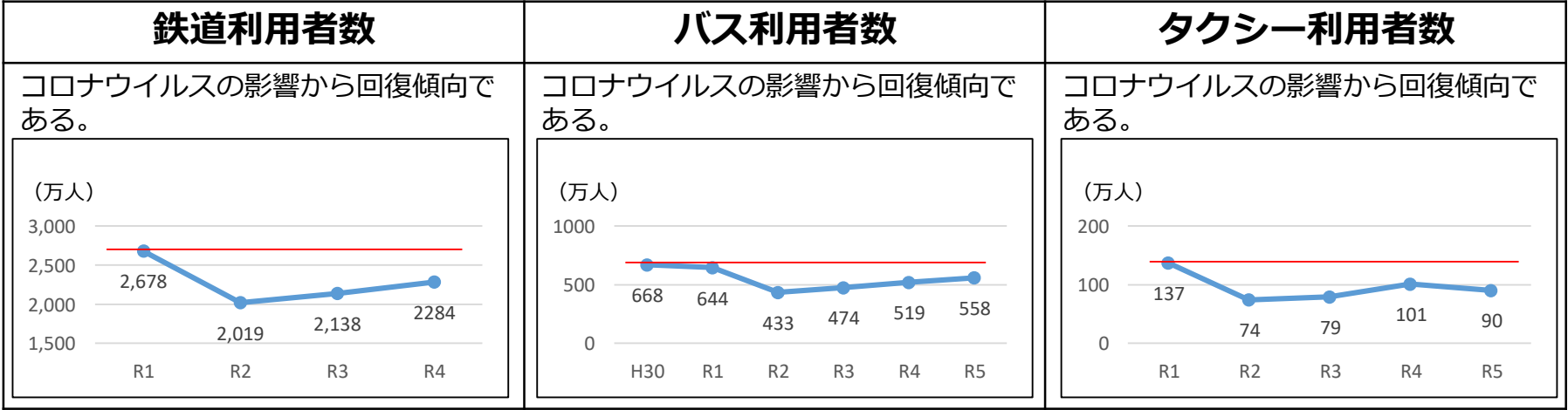
（画像は株式会社LuupのHPから <https://luup.sc/>）

【地域公共交通計画における目標の達成状況】

成果目標・目標値（※1）		達成状況（※2）				
		1 年目	2 年目	3 年目 （本年）	4 年目	5 年目
公共交通利用者数の回復	鉄道利用者数 2,678万人（令和 8 年度）	2,019万人 （令和 2 年度）	2,138万人 （令和 3 年度）	2,284万人 （令和 4 年度）		
	バス利用者数 668万人（令和 8 年度）	474万人 （令和 3 年度）	519万人 （令和 4 年度）	558万人 （令和 5 年度）		
	タクシー利用者数 137万人（令和 8 年度）	79万人 （令和 3 年度）	101万人 （令和 4 年度）	90万人 （令和 5 年度）		

※ 1 コロナ禍前の平成30年度～令和 2 年度の最大値を目標値として設定
※ 2 把握できる直近の数値を記載

【計画目標の現在の到達点】 ※赤線：目標値 青線：実績



○考察

- ・大河ドラマ放送の影響や新型コロナウイルスの分類変更などの影響により、鉄道、バス、タクシー共に令和 3 年度と比較して利用者数が回復している。
- ・鉄道やバスについては、定期利用者が増加している事業者もあり、通勤・通学需要も回復傾向にあると推察される。

【地域公共交通確保維持改善計画における目標の達成状況】

○計画における目標値

- ①利用者数：令和４年度実績値の１％増の数値
- ②利用率：人口が減少傾向にあるため、令和４年度実績値から上昇するように目標値を設定

路線名	①利用者数			②利用率			目標・効果 達成状況 A/B/C
	令和6年度 目標(人) R05.10～R06.9	令和6年度 実績(人) R05.10～R06.9	評価	令和6年度 目標(人) R05.10～R06.9	令和6年度 実績(人) R05.10～R06.9	評価	
A:額田支所市民病院	4,879	5,485	達成	0.13%	0.14%	達成	A
B:下山地区線	2,635	4,201	達成	1.32%	2.25%	達成	A
C:形埜地区線	409	111	未達成	0.67%	0.19%	未達成	B
D:宮崎地区線	328	170	未達成	1.01%	0.53%	未達成	B
E:豊富・夏山地区線	270	122	未達成	0.19%	0.08%	未達成	B

路線名	③日利用者数	④沿線人口	⑤年間運行日数
	令和6年度 実績(人) R05.10～R06.9	令和6年10月 (人)	令和6年度 実績(日) R05.10～R06.9
A:額田支所市民病院	15.0	10,959	365
B:下山地区線	17.3	770	243
C:形埜地区線	2.3	1,190	48
D:宮崎地区線	3.4	647	50
E:豊富・夏山地区線	4.4	2,881	51

※「②利用率」＝「③日利用者数」／「④沿線人口」×１００
※「③日利用者数」＝「①年間利用者数」／「⑤年間運行日数」

○参考（令和７年度以降計画における目標値の見直し）
額田地域の人口減少を加味したうえで、利用率を0.01%上昇させることにより、利用者数の維持を図る。
利用者数：前年度人口×額田地域の想定人口下落率×利用率×年間運行日数
利用率：令和５年度実績を基に、毎年0.01%を加算する

○考察

A評価路線

通勤、通学及び通院への利用が多く、目標を達成した。特に下山地区線は、地区内の高校生や小規模特認校制度を利用して下山小学校に通学する地区外の児童等の定期的な利用者が増加したことで利用者数増加につながった。

B評価路線

定期的に利用していた高齢者が外出できなくなる一方で、高齢者世代が免許を保有し運転し続けていることによりバスの利用者数が減少していると考えられる。目標は未達成だが、地区の総代会及び社会教育委員会が独自で回数券の補助を行うなど、利用促進や路線維持に努める活動が見られるためB評価とした。

4.【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針

【地域公共交通計画における今後の方針】

○今後の方針

全体	・利用促進策として実施する「おかざきスマートムーブアクション」の取組である、公共交通フォトコンテストやエコ通勤強化月間、バスの乗り方教室を引き続き実施し、子どもや公共交通を普段利用していない方などが公共交通に触れたり親しむ機会を創出することで、公共交通の利用促進に繋げていく。
鉄道利用者数	・事業者と協力したウォーキングツアーやジャズトレイン等を実施し、利用を促進する。 ・パークアンドライドのほか、公共交通と連動したサイクルアンドライドを推進するため、鉄道駅でのシェアサイクルの利用状況を分析し、利用回数が増加しているステーションへの自転車の再配置を行うことで、周遊しやすい環境を整備。
バス利用者数	・高齢者パスの購入費用の補助を継続するとともに、市広報誌等で高齢者パス及び補助内容を周知し、公共交通の利用のきっかけづくりを行う。 ・チョイソコおかざきや矢作デマンドの導入によって、既存路線とのシームレスな移動を確保し、移動総量の増加に繋がるかを検証していく。
タクシー利用者数	・タクシー事業者と利用実態等の情報共有を行い、利用促進策の検討を行う。 ・地域内交通の導入に際し、タクシー事業者とともに事業を進めていく。

【地域公共交通確保維持改善計画における今後の方針】

○今後の方針

- ・地域が中心となり利用促進に取り組んでおり、引き続き各施策を実施するとともに、地域住民や運行事業者等と連携し、より一層の利用を促進する。
- ・実利用者数が少なく、利用される方が一人でも減ると利用者数及び利用率の目標達成に影響がでるが、利用している方にとっては必要不可欠な路線であるため、需要に応じた効率的な運行の維持を図る。
- ・目標未達成路線については、引き続き回覧等を通じて周知を図ると共に、必要な人が利用できるよう、アンケート結果を分析し、移動ニーズをより反映した地域内交通となるよう地域と連携し検討を行う。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	引き続き、地域間幹線系統の利用状況に留意し、地域内フィーダー補助系統の利用者数の目標が未達成のものについては、引き続き利用促進が行われると共に、利用が想定される方々の人数やその方々へ周知されているか、また、地域住民の移動ニーズの丁寧な把握など、分析の深掘り等についても検討されることを期待します。	・地域間幹線系統について、民間バス事業者及び隣接市と連携し、利用促進について検討した。 特に、岡崎・安城線は商業施設を通るようにルート変更をし、より利用しやすい路線とした。 ・地域内フィーダー補助系統について、沿線の地域住民の移動ニーズを確認し、地域に必要な公共交通を検討するために、地域が主体となって額田地域全世帯に対してアンケートを実施した。 また、アンケートと共に運行チラシを配布し、周知にも努めた。	・引き続き民間バス事業者及び隣接市と調整を行い、地域間幹線の利用促進の検討を行う。 ・アンケートの実施結果をもとに、地域の移動ニーズが反映された公共交通を地域と共に検討していく。

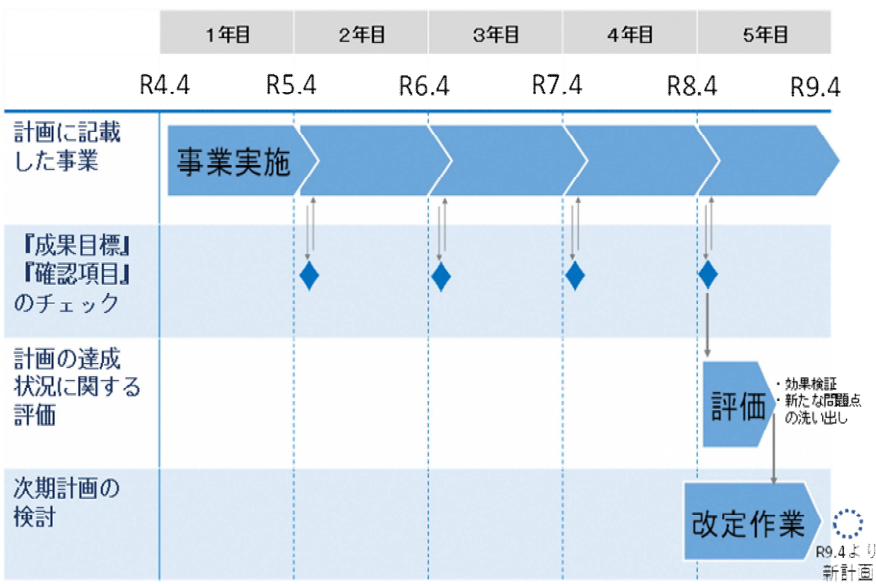
※前回：令和6年3月21日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	地域間幹線系統である大沼線及び岡崎・安城線の輸送量が補助要件基準の15人に逼迫しつつあることから、現状の把握に努められるとともに、関係する豊田市・安城市と連携して利用促進を図るよう期待します。	・大沼線及び岡崎・安城線について利用状況を分析するとともに、民間バス事業者及び豊田市・安城市と打合せを行い、連携した利用促進について検討した。	・引き続き民間バス事業者及び豊田市・安城市と調整を行い、利用促進の検討を行う。 ・路線再編を検討する場合は、沿線住民のニーズ調査を行う。
	デマンド運行について既存の公共交通との役割分担を共有し地域住民と連携して、持続可能なルール作りや運行情報の積極的な利用者周知を引き続き実施することを期待します。	・地域協議会を1,2か月に1回のペースで開催し、地域住民、運行事業者及び自治体が連携して、持続可能なルール作りや運行情報の積極的な利用者周知の方法を検討した。	・引き続き地域協議会を定期的に開催し、各地域に適した交通となるよう検討を行う。

※前々回：令和5年3月10日

○岡崎市の計画の推進方法・推進体制

【計画の推進方法】



- 本計画は、計画全体の目指すところとして『成果目標』を、各基本目標の達成度合いをチェックする目的として『確認項目』を設定し、達成状況を見ながら、計画の進捗状況を管理していく。
- 計画4年目時点には最終評価を行い、計画5年目時点で次期計画策定に向けた検討を進めていく。
- 数値指標の目標値は、計画期間中（令和8年度まで）に達成するものだが、毎年度開催する岡崎市公共交通会議にて前年の実施事業の評価とあわせて達成状況を確認していく。

○協議会の実施状況

- 第1回岡崎市地域公共交通会議 5月20日
主な議題：地域公共交通計画（案）について
- 第2回岡崎市地域公共交通会議 8月7日
主な議題：公共交通利用促進事業について
- 第3回岡崎市地域公共交通会議 10月11日
主な議題：おかざきスマートムーブアクション2024の進捗状況について